

2004年の北海道遺産、05年のラムサール条約湿地登録と、この1、2年で雨竜沼湿原は随分と知名度を上げました。この湿原を長く見守ってきた者として、なによりも嬉しい限りです。しかし、

日本や世界という、より大きなステージを見回したとき、雨竜沼湿原の認知度はそう高くはありません。とよりほとんど知られていないというのが現実です。もちろん、国内の研究者や登山愛好者の間ではそれなりに認知されつつありますが。

大切な自然環境を保全する、未来に守り伝えるという大義を

全うするにはたくさんの人々に認知されることがどうしても必要です。それは、存在・価値を含めて、その環境を大切に思ってくれる人たち、つまりファン層の存在が必要不可欠です。

日本の山地湿原を代表する日光国立公園の尾瀬は、関東・関西に多数の尾瀬ファンを抱えており、これらの声の後押しとなり、日本の自然保護活動の先駆的な舞台となつて今日に至りました。それは学識者の発言に留まらず、一度は尾瀬に足を運び、山上の楽園ともいえる自然美に心ひかれた多数のファン層の声が大きな力となったのです。



雨竜沼湿原のファンを求めて

雨竜沼湿原は札幌からは日帰り圏ですが、それでも尾瀬のファン数からすれば比べる余地はありません。年間50万人ともいわれる登山者を迎える尾瀬は、それだけ多くのファンを有する証です。もっともこんなに多くの人が雨竜沼湿原に來られては困りますが。

2006年4月から、地元雨竜町の道の駅に雨竜沼自然館がオープンします。手前味噌になりますが、当方の写真作品を展示し、広く雨竜沼湿原を紹介しようという施設です。見ることで、見せることから湿原への関心の糸口を掘りたいと思います。展示だけで

はなく、定期的な湿原学習のための講演会や学習登山、雨竜沼湿原や北海道の自然を表現した映像ショーやミニコンサートなども実施予定です。この町に暮らす人とこの町に足を運ぶ双方の人たちが、湿原を介した文化交流を体験することで、いつかは雨竜沼湿原のファンになつていただきたいという狙いです。

まずは、ファン層を獲得することです。そのためには少し間口を広くして、敷居を取り除くことから始めてみたいと思います。



岡本 洋典／おかもと ひろのり 自然写真家。1957年新十津川町生まれ。動植物を含めた幅広いネイチャーフォトを実践し、北海道の自然写真における代表的写真家として活躍中。代表作「雨竜沼」は学術的にも高い評価を得ている。雨竜町エコモニターとして湿原の調査・保護活動など、自然写真を通じた自然保護活動にも携わる。雨竜町は06年、道の駅「田園の里うりゅう」に、同氏の作品を展示した「自然館」を開設する。雨竜町在住。